

## 東京初の都市型ワイナリーとして「東京ワイナリー」が開設

コロナ前までは、出張の帰りや旅先で仕事や観光がひと段落したあとの楽しみが、その土地の食材をつかったローカル料理。これらと地元のワインや日本酒や焼酎などを合わせて飲むのがたまらない楽しみでした。海外のワインがまだまだ圧倒的に多いですが、日本ワインも着々と国内外でその評価と人気を高めてきています。

日本のワイナリーは、北は北海道から南は九州まで全国に約300以上もあるとか。有名どころはやはり山梨県。日本のワイン発祥の地でもあり新旧80以上が稼働しています。各地のワインを楽しむようになってから気づいたのが、地元の食材を使った料理にとってもマッチすること。昨今それを求めようにもかなわず、自然と自分の住む東京に注目するようになりました。実は東京にもワイナリーがありました。

2014年に練馬区で東京初の都市型ワイナリーとして「東京ワイナリー」が開設され、以降、江東区、台東区などでもワイナリーがオープンし「東京のワイン」が作られています。ちなみにかわいらしい外観の東京ワイナリーの建物は、もと新聞販売店だったとか。最近ですと渋谷のミヤシタパークにも醸造所ができましたね。

東京は無国籍なイメージが強かったのですが、ワインをきっかけに、改めて食材に注目してみると東京で！？といった意外性のある様々な「東京産」のうまいものがゴロゴロしていました。各地からうまい食材や酒が東京に入ってくるものだとの思い込みを見事に打ち破ってくれました。東京近海の魚介類をはじめ、黒毛和牛の東京ビーフ、豚のTOKYO X、今年のクリスマスにいただいた東京しゃもなど、じつに種類も豊富。野菜も23区内でも結構つくっているんですね。みんなうまい。そして、日本ワインが実に合う。

ワインのほかにも、日本酒の蔵が10を超えたり、代官山など都心でクラフトビールも楽しめます。焼酎もあります。青ヶ島では幻の焼酎（青酎）も。

コロナ禍で各地の美味しいお店に行けないのがとても残念ですが、逆に東京のうまいものに気づくことができました。

東京新聞 広告局広告二部 飯野 基



一望に広がるぶどう畑を楽しみながらワインが頂ける  
＝山梨県



ワイン熟成の樽が観れる＝山梨県